

「ハンナ の 祈り」

2025.8.13
聖書に学ぶ 20
I サムエル記 1 : 1～28

神から離れたイスラエルの民に、神様は神に立返るように外敵や災害を次々と送られました。この暗い時代の中で、主なる神様はご自身の計画を思いがけない所から進めて行かれます。ここでは、問題をかかえた一人のハンナという女性を用いられました。神様は問題のある人に働きかけられ、導かれ、さらに用いられます。この婦人への主の解決方法を見ながら、私たちが自分の問題とどのように向き合っていくかを学びましょう。

今日の学びの要点

神はご自身の計画のために、ハンナを不妊の女とされ、苦しみ悲しむことを通して神の元に引き寄せ、心の底からの本音での祈りを献げるハンナから、主ご自身の思いを真実に伝える預言者サムエルを立てられた。

ヨセフによってエジプトに住むようになったイスラエルの民は、やがて奴隷にされ神様に叫びました。神様はモーセを用いてエジプトから脱出させ、約束の地に戻されました。イスラエルの民は、約束の地を領有し、定着しました。しかし落ち着くと、イスラエルの民は主なる神様から離れてしまいました。

I、ハンナの苦悩と信仰 (創世記 44:1～13) 夫エルカナ：エフライム人

1、エルカナの妻ハンナは、悲しい日々を送っていました。その状況から主の前に出るまでをみていきましょう。(Iサムエル記 1 : 1～8)

①ハンナが辛く悲しい日々を送っていたのは、何故でしょうか。

・当時のイスラエルにおいて「子を持つこと」が女性の価値とみなされていた。

(創世記 1:28)

・ハンナの苦しみは個人的な悲しみだけでなく、社会的な痛みでした。

②ペニンナはハンナをいじめ、苦しめるようなことをなぜしていたのでしょうか。

(Iサムエル記 1 : 5～6)

③夫エルカナは、どうしてペニンナに注意しなかったのでしょうか。

(Iサムエル記 1 : 8)

——ペニンナは夫に分からないように、ハンナをいじめていたのではないかと——

——ハンナはペニンナの意地悪な仕打ちをエルカナに言わなかった——

2、神様は子どもを産めない女性を通して、神の計画を進められます。
これには何か法則があるのでしょうか。

①聖書の不妊の女（神様が胎を閉ざされた）

- ・サラ：（創世記 21:1～7）
- ・サムソンの母：（士師記 13 章）
- ・エリザベツ：（ルカ 1:5～23,56～80）

②この危機的な状況から、神様に対する信仰によって問題が解決されただけでなく、与えられた子が多くの人々への祝福の基となった。

Ⅱ、主の宮でのハンナの祈り

1、エルカナは毎年シロの神の幕屋のある所に来て、献げ物をしました
ハンナはその宮で神様の前に立ち上がりました。

①神の前のハンナの祈りの内容は、何でしたか。（Ⅰサムエル記 1：10～11）

- ・男の子を与えられたい　・その子を一生捧げたい　・ナジル人にしたい（民 6：5）

②ハンナは祭司エリの誤解を解き、神のことばを頂くため、自分はどういう女だと言っているのでしょうか。（Ⅰサムエル記 1：16）

③祈り終わった後、ハンナの顔は変わりました。何を与えられたのでしょうか。
（Ⅰサムエル記 1：18）

2、ハンナは心を注ぎ出す祈りで、突然、与えられる子を主に献げると
誓う祈りをしています。なぜこのように祈ったのでしょうか。

- ・祈る前に考えていたのでしょうか。
- ・祈りの中で、主が働かれ、主から示されたのではないか。